◆授業のポイント◆

・探究の過程を意識した単元の設定
・複眼的に作品をとらえるための比較・分析の指導の工夫

国語科学習指導案

学　級　　3年3組（男子１９名女子１７名計３６名）
場　所　　３年３組教室（３年校舎　２階）
授業者　　教　諭　　霜　田　　さおり

1 単　元

「高瀬舟」を読んで批評する～登場人物の設定や展開，表現の仕方を評価する　　学習材名「高瀬舟」

2 単元について

本単元では小説教材である「高瀬舟」を批評する学習を行う。まず，「高瀬舟」における人物の設定や展開，表現の仕方などについて文章中の表現を手がかりに批評する学習を行う。次に，作品をさらに深く読み解くために森鴎外の他作品や資料等から必要な情報を集め，そこから分かったことを新たに自己の批評に加える学習を展開する。なお，批評する際は，いずれも生徒に観点を示させることで，情報やそれらに対する自己の思考を整理させたい。これらの学習活動を通して，文学作品を複数の観点から読み解いたり作品から社会生活に通ずる作者の思いを見いだしたりしたうえで，それらについて評価しながら自分の考えを述べることは，社会生活に生きる言葉の力を育成するうえで意義あることと考える。

本学級の生徒は，学習に意欲的に取り組み，与えられた課題に対して積極的に考えようとする姿が見られる。また，これまでの諸学力検査の結果から各領域の基礎的・基本的な知識や技能の習得はおおむね達成している。しかしながら，話合い活動の意義を理解し，相互に意見交換をするために，積極的に話合いに参加しようとする態度にはやや課題がある。さらに，自ら課題を設定して読み深めたり，自分の考えや意見を多角的にとらえてまとめてみたりする学習が十分であったとは言い難い。そこで，本単元で生徒が自分の感想や疑問点をもとに自ら課題を設定したり，必要な情報を多角的に収集し，それらを比較・分析しながら自分の考えに生かしたりする学習を設定することによって，主体的に学習に参加するとともに探究的な学習に生きる力の育成に資すると考える。

指導に当たっては，複数の観点から作品を批評することで作品をより的確にとらえられることを理解させたい。そのために，まず，初発の感想を分類させ，共通点や相違点を見いださせることによって批評の観点を考えさせたい。次に，その観点を用いて作品を分析させ，そこから分かることを根拠に，自分の考えをまとめさせたい。さらに，他者のもつ作品に関する情報やそれに対する考え等を交流させる場面を設定することで，生徒個々の批評の内容がより深まったり広がったりできるよう配慮したい。

3　習得・活用・探究の授業の関連

習得する基礎的・基本的な知識や技能
・登場人物の設定の仕方や展開，表現の仕方をとらえて，内容の理解をする。
・複数の資料等と作品を読み比べて根拠を明確にしながら作品を評価する。

知識や技能が活用された姿（生徒像）
・登場人物の設定の仕方や展開，表現の仕方を考えながら，読書をすることができる。
・読み取った内容を根拠を明確にしながら説明することができる。

↓

探究の授業において生かすことができると考えられる力
・複数の資料等や他者の意見から自分の考えの根拠となる情報を集め，自分の考えにより説得力をもたすことのできる力（言語・情報活用力）

4 単元の目標

（1） 作品に対する自分の分析や他者の考えを参考にしながら作品を批評しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
（2） 登場人物の設定や展開などについて作者の意図を考えながら読むことができる。（C イ）
（3） 複数の資料から得た新たな情報を比較・分析し，作品と関連づけながら批評に生かすことができる。（C ウ）
（4） 文章の展開の中で敬語のもつ意味を捉えることができる。（第２学年　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項　イ（ア））

5 単元の指導計画(全6時間)

過程	活動のねらい	主な学習活動	時数	指導上の留意点
導入	・「高瀬舟」を批評するという目的意識をもたせ，見通しを立てさせる。	1　単元の学習目標と学習計画を確認する。 2　本時の学習目標と学習の進め方を確認する。	0.5	・学習活動（批評）の目的を理解させるために，電子黒板を用いて説明する。
展開	・内容を一文でまとめることで，作品のあらましをつかませる。	3　出版社等の作品紹介文からあらましを一文で予想する。 4　教師の範読を聞く。 5　初発の感想を書き，交流する。	0.5	・中心人物を主語にして物語の内容を一文で書かせることで，批評する際の冒頭部分に使わせる。 ・感想カードを用いることにより次時で分類しやすくする。
	・思考や情報を整理するためには観点があると分類できることに気付かせる。	6　初発の感想を相互交流を通して分類し，課題をつくる。	1	・これまでの学習を生かした観点例を示したプリントを分類の参考にさせる。
	・記号などを用いることで人物の関係を分かりやすく整理できることを理解させる。 ・作品の内容や展開は場面と深い関わりがあることを捉えさせる。	7　グループ内で観点別に役割を決め，作品を読み深める。 ・観点１　人物設定 ・観点２　構　造 8　それぞれの観点から分かったことを相互交流する。	1	・語句や描写などについてその意味や効果を考えとしてまとめさせる。 ・人物設定は内容理解と他者への説明のためにシーケンス・チャートをつくらせる。 ・構造は「設定」「発端」「展開」「転換点」「結末」をとらえさせ，「展開」か「転換点」に絞って自分の考えをまとめさせる。なお，「転換点」は教科書本文「……そこに疑いが生じて、どうしても解せぬのである」（P 132 L 10～11）とする。
	・作品を複眼的にとらえるための方法を考えさせる。	9　作品をより複眼的にとらえるための観点を考える。 10　観点に沿って情報を収集・分析する。	1	・予想される観点は以下の通り。 ①他作品との対比　「寒山拾得」 ②作者について（年譜，「高瀬舟縁起」） ③時代的背景
	・作品と情報を関連させる。	11　作品の批評に生かすために，情報の交流から得たことを作品と関連付けさせる。	1本時	・観点１，２に関する情報を交流のなかから収集させる。
	・学習したことをもとに作品の批評を完成させる。	12　これまでの学習を振り返り，作品の批評をまとめる。	1	・「批評に用いられることば」を参考に作品に対する自分の考えをまとめさせる。 ・批評の根拠の出典を明確にさせたり，引用させたりしてより説得力をもった内容にさせる。

6 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ 自己の文章の分析や他者の考えを参考にしがら作品を批評しようとしている。	・ 人物の設定や展開，表現の仕方などについて作者の意図を考えながら読んでいる。（C　イ） ・ 複数の資料から得た情報を比較・分析し，作品と関連づけながら批評に生かしている。（C　ウ）	・ 文章の展開の中で敬語のもつ意味を捉えている。（2年言語ア）

7 本時の実際　（５／６）

（１） 学習目標

「高瀬舟」について他作品や資料から集めた情報と作品との関連について自分の考えをまとめることができる。

（２）目標行動

① 「高瀬舟」について集めた情報を交流する中で，必要な情報を選択することができる。

② 選択した情報をもとに，互いの情報の関連を見つけることができる。

（３）授業設計の工夫

① 探究の過程を意識した単元の設定

本単元は本校国語科で捉える探究の過程を踏む実践を通して，作品を読んで批評する学習である。批評とは，読み手（聞き手）が心を動かされたことについて，作品の表現や内容を客観的，分析的に捉え直し，作品を評価することである。次は「高瀬舟」における探究の過程である。

時間	探究の過程	関連する研究の内容	学　習　内　容
1	課題設定	【対話を用いた課題設定の工夫】 ・対話	初発の感想を，対話を通して分類し，それらをもとに批評する活動のための課題（習得すべき能力に関する課題）を設定する。
2	比較・分析	【比較・分析の工夫】 ・対話 ・協同的な学習	① 批評をするために，文章中の表現を分析しながら２つの観点（人物設定と構造の設定）に沿って描写等の効果について捉える。 ② それぞれの観点から分かったことを発表し，互いに検証する。
3	まとめ・表現	【まとめ方や表現の仕方の工夫】 ・批評	批評するために，表現を根拠に人物設定や構造の効果について自分の考えをまとめる。
4	課題設定	【対話を用いた課題設定の工夫】 ・対話	前時でまとめた自分の考えに説得力をもたせるために必要な観点を考える。（作者，他の作品，時代的背景）
	情報収集	【情報収集の工夫】	それぞれの観点ごとに役割分担し，ブックリストをもとに必要な情報を集める。
5	比較・分析	【比較・分析の工夫】 ・対話 ・協同的な学習	それぞれの立場から発表した内容から作品の人物設定や構造の設定と関連のある情報を選択し，自分の考えをもつ。
6	まとめ・表現	【まとめ方や表現の仕方の工夫】 ・批評	これまでの学習を振り返り，分析したことを根拠に作品を批評する。

② 複眼的に作品を捉えるための比較・分析の指導の工夫

批評するためには，作品を客観的・分析的に捉えることが必要である。そこで，本単元では，これまでの複数の文章の比較や文章と資料との比較に加え，それらの学習活動の際，協同的な学習を取り

入れ，互いのもつ情報や考えを比較・分析する活動を設定する。まず，観点ごとに役割を決め，それぞれが作品から読み取った内容を比較させることによって，より的確に内容を捉えさせたい【２時間目】。さらに，生徒が自ら資料を探し，内容理解に必要な情報を取捨選択し，そこから分かったことをまとめさせることで，資料等を根拠にした批評に取り組ませたい【５時間目】。その際、観点ごとに生徒が個々，またはペアで活動し，それらをグループで情報を交流させることでより複眼的に作品をとらえられるようにしたい。

（４）展　開

過程	主な学習活動	時間 形態	指導上の留意点　◎評価　※授業のポイントについて
導入	1　前時までの学習を想起する。 2　本時の学習目標と学習の進め方を確認する。 批評に必要な情報を選択し，それぞれの作品とのつながりをまとめよう。	5 一斉	・　前時までの学習を電子黒板で確認する。 ・　学習目標を提示するとともに，学習の進め方を明確にする。
展開	3　既習の作品をモデルを示し，作品と情報を関連付ける方法について確認する。	5 一斉	・　作品と情報とを関連付ける方法を理解させるために既習作品を用いて説明する。 既習作品「アイスキャンデー売り」 （作者）作者の幼少期における 戦争体験 （他の作品）７月３１日のゆうれい （時代的背景）戦争体験者の減少
	4　情報を交流し，作品との関連について考える。 （１）　グループ内で情報を交流する。	１０ グループ	・　３つの観点で押さえていることは以下の通り。 作者　→「作者年譜」 他の作品　→「寒山拾得」 時代的背景→明治時代から大正時代にかけての人々の暮らしとの比較
	（２）　グループで得た情報と作品との関連を考える。	１０ 個 ↓ グループ	◎　作品を批評するための情報を得るために，異なる立場の発表内容から必要なことを得ることができたか。 （評価対象　ワークシート）
	（３）全体で交流する。		※ 複眼的に作品を捉えるために，異なる観点から集めた情報を照らし合わせ新たな考えをもたせるための協同的な学習を設定する。
	5　関連づけた内容が反映されていると考えられる本文の表現を挙げる。	１８ 一斉 ↓ 個	◎　必要な情報を選択し，作品の表現と類似している点に注目したり，作者の考えが反映している部分に着目したりできたか。 ・代表者に発表させる。
終末	6　本時のまとめを聞き，次時の意欲をもつ。	2 一斉	・次時の学習内容を予告する。